

シヴァランジャニとふたりの女 Sivaranjani and Two Other Women

2018年 デジタル カラー 117分 インド 日本語・英語字幕付き

監督：ヴァサント・S・サーイ

プロデューサー：ヴァサント・S・サーイ

脚本：ヴァサント・S・サーイ

撮影：ラヴィシャンカラン

N. K. エーカムバラム

編集：シュリーカル・プラサード

美術：マヒ

マーシャル

出演：カーリースワリ・シュリーニヴァーサン

カルナーカラン

パールヴァティ・ティルヴォートゥ

ラクシュミ・プリアー・チャンドラマウリ

南インド、タミル・ナドゥ州の三人の女性たち。1980年、1995年、2007年という三つの時代を、抑圧されながらも生き抜く妻たちの姿を描いたオムニバス映画である。

1980年、サラスワティは高圧的な夫と口論になり、初めて口答えをただけで、夫は一切の会話を拒否するようになる。そして夫は、彼女と幼い娘を残し、何の対話もないまま家を出てしまう。1995年、共働きで自立心の強い妻デーヴァキは、日記をつけていた。しかし、それが夫や、同居する夫の家族の知るところとなり、彼女の日記が家族の名誉を傷つける内容ではないかと邪推され、日記を見せるよう要求される。そして2007年、かつては才能ある陸上選手だったシヴァランジャニだが、現在は専業主婦として、常に命令口調の夫、冷やかな態度の姑、そして一人娘と共に暮らしている。息つく暇もなく家族の世話や家事に追われ、いつも動き回っている。

この映画で描かれる約30年の間、女性たちは社会的な抑圧、あるいは女性蔑視の現実にも苦しみ続けている。同じく女性同士による衝突や偏見にも直面するが、三人の妻たちは不満を声高に訴えることなく、粘り強く前に進もうとする。そして最後に、シヴァランジャニは自らの意志で大きな飛躍を見せる。

家父長制や性差別に対し、静かに凛と立ち向かう妻たちを描いたこの作品は、インドの第68回ナショナル・フィルム・アワードの3部門で受賞し、2019年の福岡国際映画祭では観客賞を授与されるなど、国内外で高く評価された。